

砂名の ベトナムに乾杯

第40回 海外でトラブルに遭遇しないために、体験談から学ぶ

海外に出たがらない、海外赴任を断る若者続出、どこかパスポートを持っている日本人はわずか20数パーセント、と言われて久しい一方で。30年間賃金が上がらない、さらに円安の煽りを受けて、海外に出稼ぎに出る人たちが増えていると聞きます。いずれにせよ、まずは海外情報を共有することが大切かと思えます。YouTubeでも海外在住者、旅行者からの体験談をまとめて発信しているチャンネルがあります。週末海外ノマド「ダイスケ」では、コロナなどの影響でめまぐるしく変わる各国の空港の状況や、海外在住者には耳寄りな日本の法律や銀行のシステムなどをまとめて発信してくれています。

さて当店でも貴重な体験談をお聞きすることがちょくちょくあります。

私ごとですが、ヒースロー空港で首から下げたカメラを何気にチェックインカウンターに向けた私は、空港警護の男性2名から、自動小銃の銃口を向けられたことがあります。チャット音がして振り向くと、アクション映画のような光景が。確かに撮影禁止エリアではありますが、日本の空港で体験することは、まずありません。

デンマークに夜遅くに到着した方が、空港から電車で2駅のところにあるホテルを予約。駅には、日本のような券売機も自動改札機もない。電車がホームに入っていて、みんなどンドン乗り込んでいる



もう3年、日本に帰っていません。まず、飛行機に乗りたい。

ので、車内でもチケットが買えるだろうと思い、乗ったそうです。電車が発売してまもなく検札が来て職質。「チケットを売っているところが分からなかった。今払う」、いくら説明しても「無賃乗車だ」と決めつけ、罰金のチケットを切られたそうです。日本円にして6万円！さらに「1週間はデンマークから出ないこと」。翌日デンマーク人のビジネスパートナーに相談したところ、中国からの不正入国を防ぐため、アジア人は特に厳しく取り締まっているとのこと。結局はそのまま放置して次の出張先のドイツに出国したら、無事、何事もなく入国出来たそうです。

イタリアで飲食店で働いていた日本人の方が、コロナ明けに日本に一時帰国しようと、UK経由で格安チケットを購入。ロンドンに着いたとたん、「ビザはどうした？」。会社がビザを申請中で、総務が「大丈夫だ」というので出国したそうです。イタリア的には大丈夫でも、UK

ではアウト。そのまま強制送還に。EUでは強制送還されると2年間、EUに再入国できないそうです。と言う話を、「イタリアに戻れなくなったので遊びに来た」と、当店にご来店されて話しておられました。いずれにせよ、EU内であっても各国で認識や対応にかなり温度差があり、また日本の常識だと「これぐらい」という甘えもあります。

そして平成生まれの方たちには記憶にないでしょうが、半世紀前、「テロリスト」と言えば日本の過激派のことを差していた時代があり、その記憶が残っている人たちが世界には未だにいる、という話を、先日イスラエルに旅行した方からお聞きしました。私もテルアビブと聞くと「岡本公三」と出て来ます。

そんな歴史的背景や情報を少しでも身に付けて、安心・安全に楽しく、世界を旅し、遊び、仕事をし、暮らしてゆきたいですね。



月森砂名(つきもりさな)

奈良県出身。同志社大学卒業。2015年、ベトナム初の角打ち【日本酒で乾杯!】に続き、2020年、Pham Viet Chanhにて日本酒専門の「角打ちのある酒屋」【蔵 KURA】をオープン。経営に携わる。東京で舞台撮影や制作の仕事をする傍ら、作家活動を行う。2009年よりNPO法人 Layer Boxにて、日本の伝統文化について、大学、高校、専門学校とともに、PV、3D、CGなどのコンテンツ制作および世界発信を行う。